

第8回 身近な京都を知る歴史散策（北区）

船岡山から御土居を巡る①

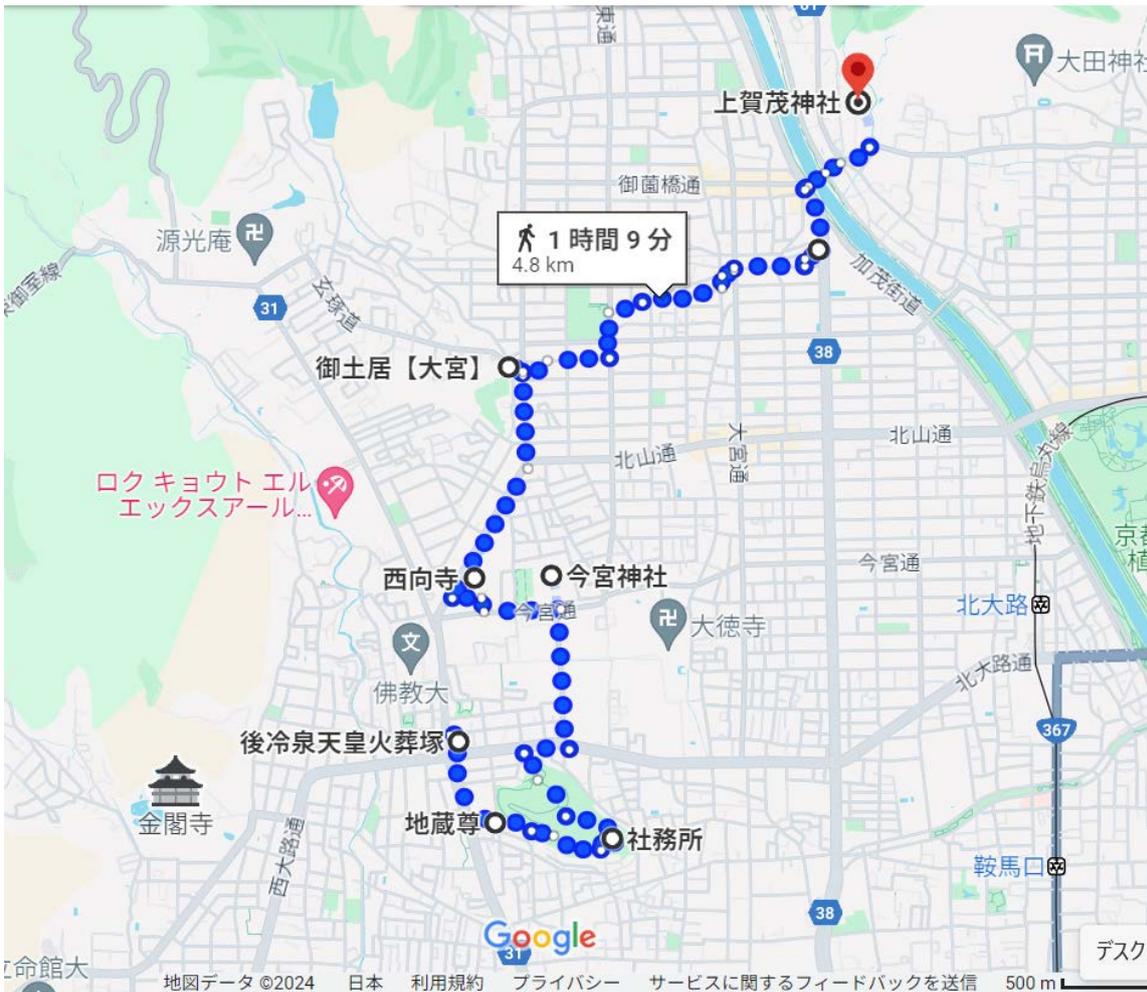
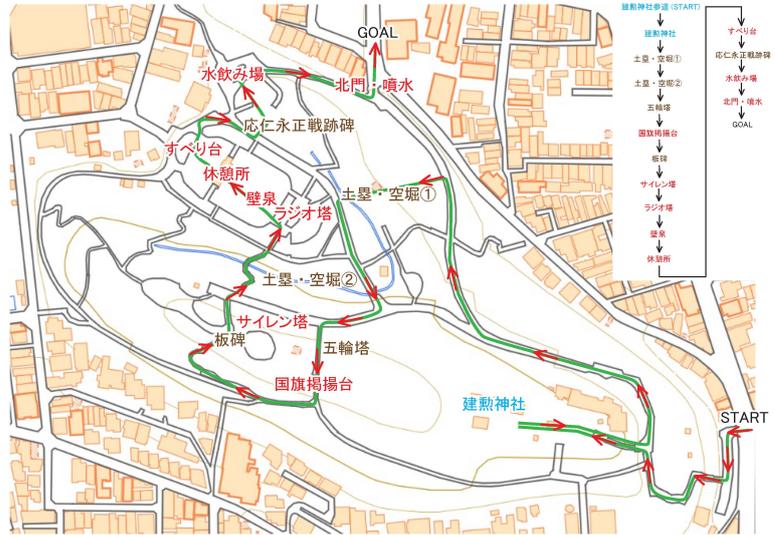
主催：特定非営利活動法人平安京調査会

<https://heiankyo-tyousakai.com>

特定非営利活動法人

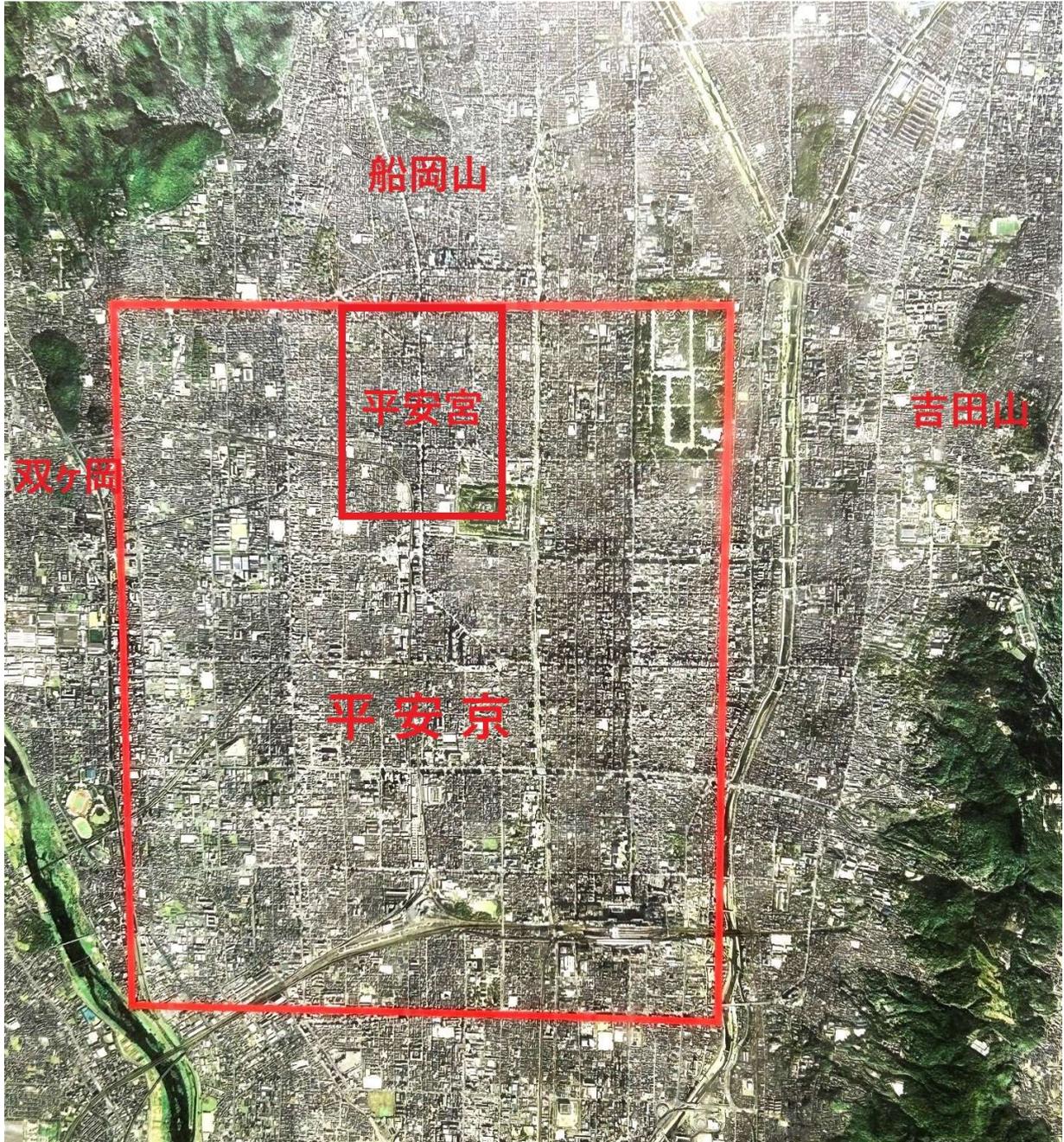


- 後冷泉天皇火葬塚
- 地蔵院
- 建勲神社
- 船岡山
- 今宮神社
- 西向寺
- 御土居（大宮）
- 御土居（紫竹）
- 御土居（堀川）
- 📍 上賀茂神社



平安京と船岡山・双ヶ岡・吉田山

平安京はよく四神相応の地と言われます。これは中国の風水思想からのもので北に山、南に湖や海、東に河川、西に大道で囲まれた地とされ、東に青龍の鴨川、西に白虎の山陰道、北に玄武の船岡山、南に朱雀の今はなくなりましたが巨椋池と、「気」を逃がさないように守ってくれる四神に合う地形がうまくそろっているのです。京都盆地からみても東・北・西側には山があり南側は開けている地形ですし、平安京だけを見ても、西に双ヶ岡、北に船岡山、東に吉田山があり、南には巨椋池が広がるという地形で、この三山が平安京の特に天皇が住まう内裏や政治を行う朝堂院などを守るような形で存在します。



現在では、この三山それぞれに国の位置を決める基準になる三角点があることも平安時代の平安京設計に重要なものであったであろうことを知らせます。

それぞれの三角点は以下のものです。

双ヶ岡（ならびがおか）

基準点名：御室（おむろ）

地図：京都西北部 北緯 35° 01′ 28.1483″ 東経 135° 42′ 46.4322″ 標高 115.79m

X=-108184.817 Y=-26198.639

地名は双ヶ岡ですが正式には雙ヶ岡と書きます。雙ヶ岡自体も三つの丘からなり、全体が公園になっています。山頂近くには 1980 年（昭和 55）に発掘調査された横穴式石室の古墳があります。6 世紀後半から 7 世紀の豪族首長のために築造されたものです。（ちなみに、この古墳の羨道の方向は奥から入口を見て広隆寺に向いています。豪族首長とは秦氏の誰かと考えられます。）また、三の丘頂上から真東方向をたどれば平安宮内の内裏にあたることも平安京設営時に意識されたものと考えられます。）

この三角点の設置は明治後期ですが、2000 年（平成 12）に改埋され新しい標石になりました。刻字は南面に左書きで「三等」、縦書きで「三角点」、西面は「国地院」、東面は「基本」になっています。標石の東南角が欠損しています。

船岡山

基準点名：船岡山

地図：京都西北部 北緯 35° 02′ 20.3551″ 東経 135° 44′ 30.2086″ 標高 111.71m

X=-106583.301 Y=-23563.970

市街北西にある丘陵で大徳寺の南にあたります。船を伏せた形の丘なので船岡山と呼ばれます。全山公園になっていますが、明治時代に建設された織田信長を祀る建勲神社が東半分を占めています。三角点は山頂の展望台にあります。

船岡山は 794 年（延暦 3）桓武天皇の平安京造営にあたって基準点とされました。また 1467（応仁元）年から 10 年間つづいた応仁の乱では、この地に砦が築かれました。現在の三角点の標石の周りにもマウンドが築いてあります。

吉田山

基準点名：吉田山

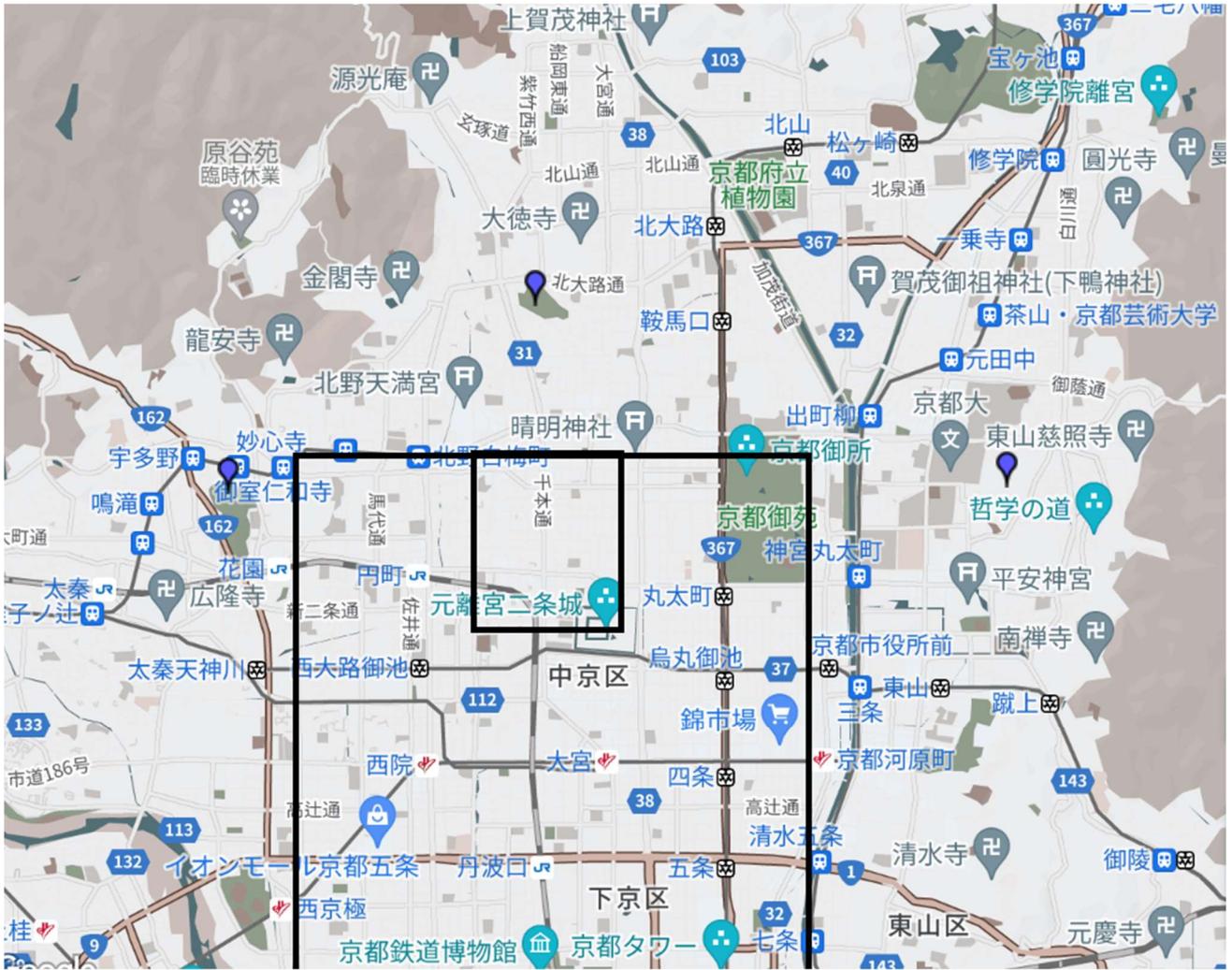
地図：京都東北部 北緯 35° 01′ 29.7732″ 東経 135° 47′ 09.5010″ 標高 105.11m

X=-108151.484 Y=-19530.312

京都市街東にある丘陵で京都大学の東、節分で知られる吉田神社の上にあります。徒然草の吉田兼好もこのあたりに住んでいたのが、吉田と名乗ったそうです。点の記によれば三角点は 1903（明治 36）年に設置されました。以前から、この標石を探していたのですが亡失したのか、地形図には載っていても実在していませんでした。現在の標石は 1994（平成 6）年に埋設された新しいものです。

三角点は丘の最も高いところではなく、南の広場にあり吉田神社からの急な石段を上り、そのまま登りつめたところですが、吉田山も近年、遊歩道など整備されましたが、だんだん荒れてきています。大正初期には松茸も採れたそうです。

ちなみに、双ヶ岡と吉田山は約 6,668m 離れている。



双ヶ岡 115.8米 三等 2006/1/24



船岡山 111.9米 三等 2006/1/19



吉田山最高所の基準点 2003/12/23



吉田山 105.1米 三等 2000/4/29



船岡山公園近代化遺産位置図

○近代以降の船岡山

船岡山は明治2年、明治天皇の宣下により織田信長を祭神とする神社の創建が決定し建勲神社が完成。以後、船岡山は名勝として市民に親しまれました。
昭和5年、京都市が従来の名所旧跡を保護し公園とするため風致地区の選定を行い、昭和6年に船岡山が指定されたのをきっかけに近代的な都市公園としての整備が開始。
昭和10年に船岡山公園の整備が完了し開園しました。現在もラジオ塔や庭園設備、休憩所、すべり台などの近代化遺産としての開園当初の施設が数多く残されています。

- ①北門・・・燈籠型の門柱で、火袋部分に照明があった。
- ②北門噴水・・・北門を入った突き当り。真ん中の石柱が噴水。
- ③西門・・・北門と同じデザインの燈籠型門柱。
- ④街灯・・・燈籠型のデザインで、園内に数か所同じものが残されている。
- ⑤水飲み場か・・・水生植物池の背面。水飲み場としていますが用途は不明。
- ⑥休憩所・・・人造石研ぎだしのベンチを設置し、両側に藤棚を設け、隅に鉢植えを設置。
- ⑦すべり台・・・開園当初のもの。裏面に解説。
- ⑧壁泉・・・壁面から滝のように水を出し下の池に落とす施設。西欧式庭園の技法。
- ⑨ラジオ塔・・・いわゆる街頭ラジオ。ラジオ普及を目的として全国に設置。平成27年に機能が復活。
- ⑩サイレン塔・・・戦時中に空襲をサイレンで知らせる塔として建設。戦後は正午のサイレンを鳴らした。
- ⑪方位盤・・・船岡山山頂から見える景色を方位で銅板に示したもの。
- ⑫国旗掲揚台・・・背面にポールを取り付け国旗を掲げた。戦前、公園等で国旗の掲揚が推奨された。



①北門



②北門噴水



③西門



④街灯(他にもあり)



⑤水飲み場か



⑥休憩所



⑦すべり台



⑧壁泉



⑨ラジオ塔



⑩サイレン塔

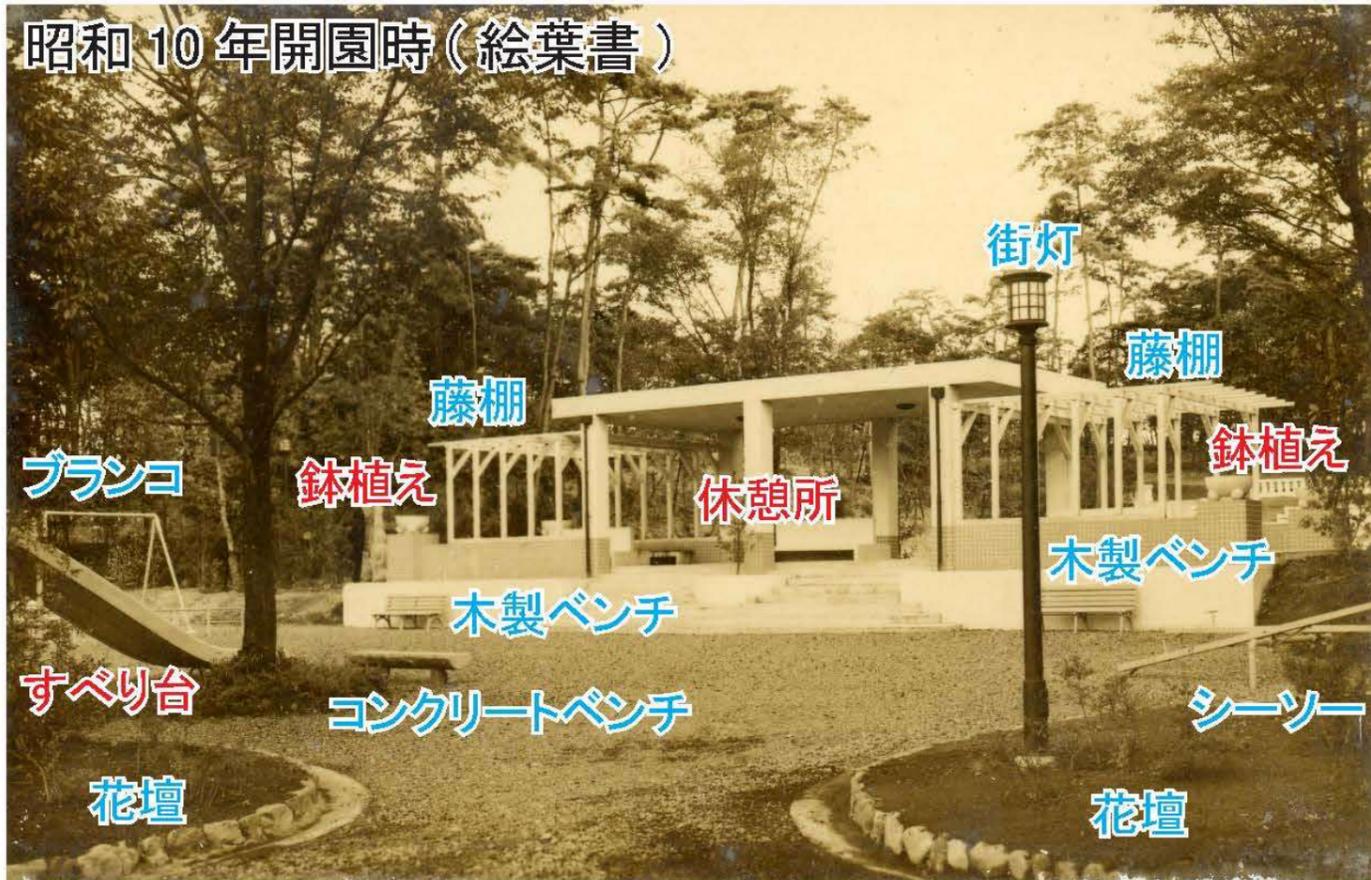


⑪方位盤



⑫国旗掲揚台

昭和 10 年開園時（絵葉書）



○昭和 10 年開園当時の船岡山公園広場の絵葉書（ガイド所蔵）と、現在の船岡山公園広場。

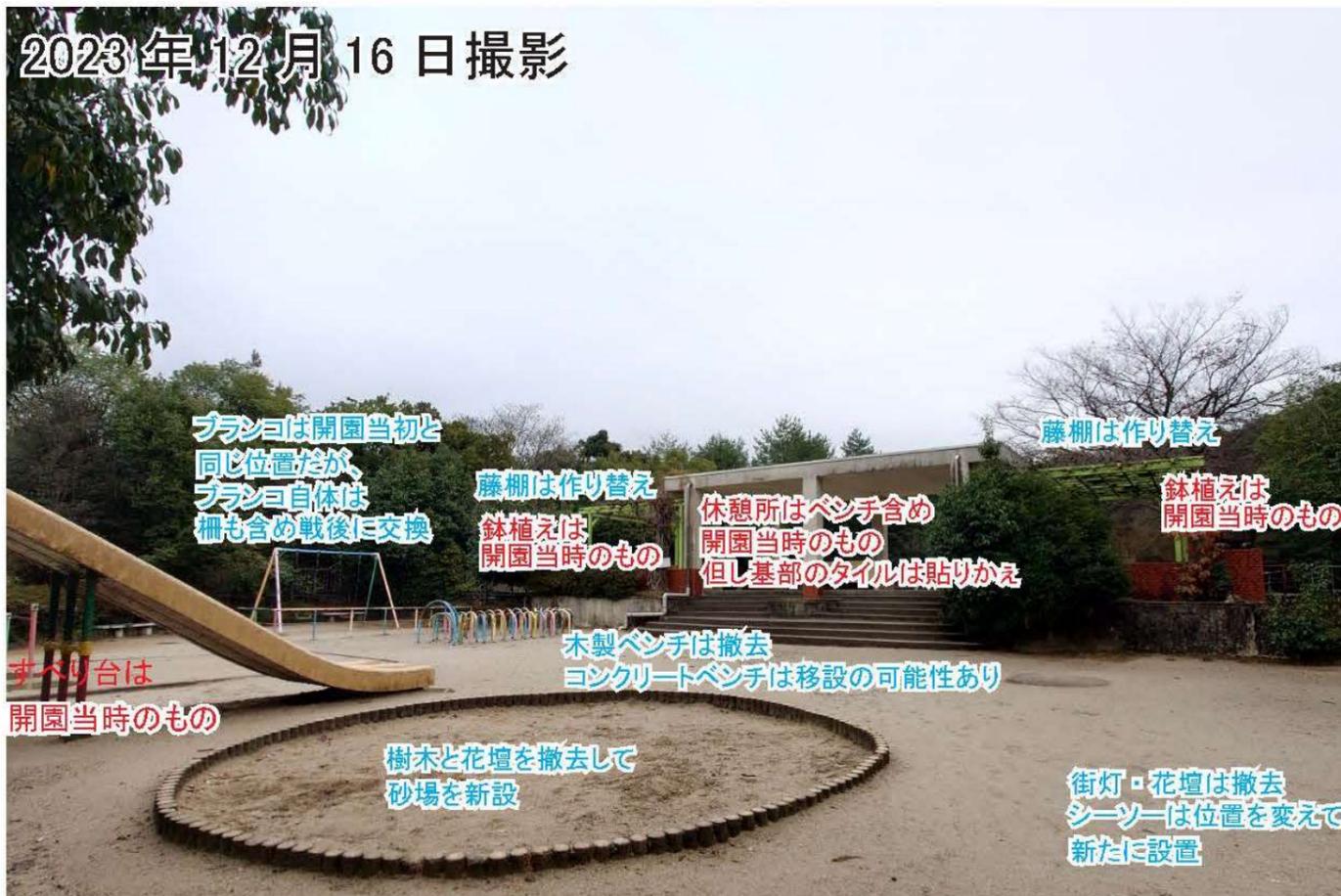
絵葉書と同じアングルの現在の写真との比較により、街灯、ベンチ、花壇、シーソーは失われているが、休憩所・すべり台・ブランコは現在も同じ位置に存在することが判明した。そこで現地での実地調査を行ったところ、ブランコと藤棚は作り替えられているが、休憩所とすべり台は開園当初の昭和 10 年の設置と判明した。

○船岡山公園広場のすべり台について。

昭和 10 年開園時の絵葉書にすべり台の先が写っており、現在と比較すると位置が同じであることから、開園当時のすべり台ではないかという可能性が出たため、現地にて細部を記録した。調査の結果、船岡山公園広場のすべり台は、すべり台部分を支える鉄骨が山型鋼であること、その鉄骨や階段部分の接続がリベット打ちであること等から、戦前～昭和 20 年代の特徴を持つ技法だと判明した。また、すべり台本体は人造石研ぎ出し技法（モルタルに小石を混ぜて水を加えて固め、人力で研磨して仕上げる技法。人研ぎとも言う）で、現在も京都市内の古い児童公園等に昭和 30 年代～40 年代頃の人研ぎのすべり台が多く残されているが、それらと船岡山公園広場のすべり台と比較しても、船岡山公園広場のすべり台のような古風な技法のすべり台は見当たらなかった。そして、絵葉書に写るすべり台の裏側部分と現在のすべり台の同じ裏側部分を比較したところ、鉄骨の位置とリベットの位置が一致したため、船岡山公園広場のすべり台は開園当初の昭和 10 年に設置されたものだと判明した。

その結果、船岡山公園広場のすべり台は京都市内に現存する遊具でもかなり古い部類に入り、すべり台に限ると現状で京都市内最古の現存例となる可能性がある。

2023 年 12 月 16 日撮影



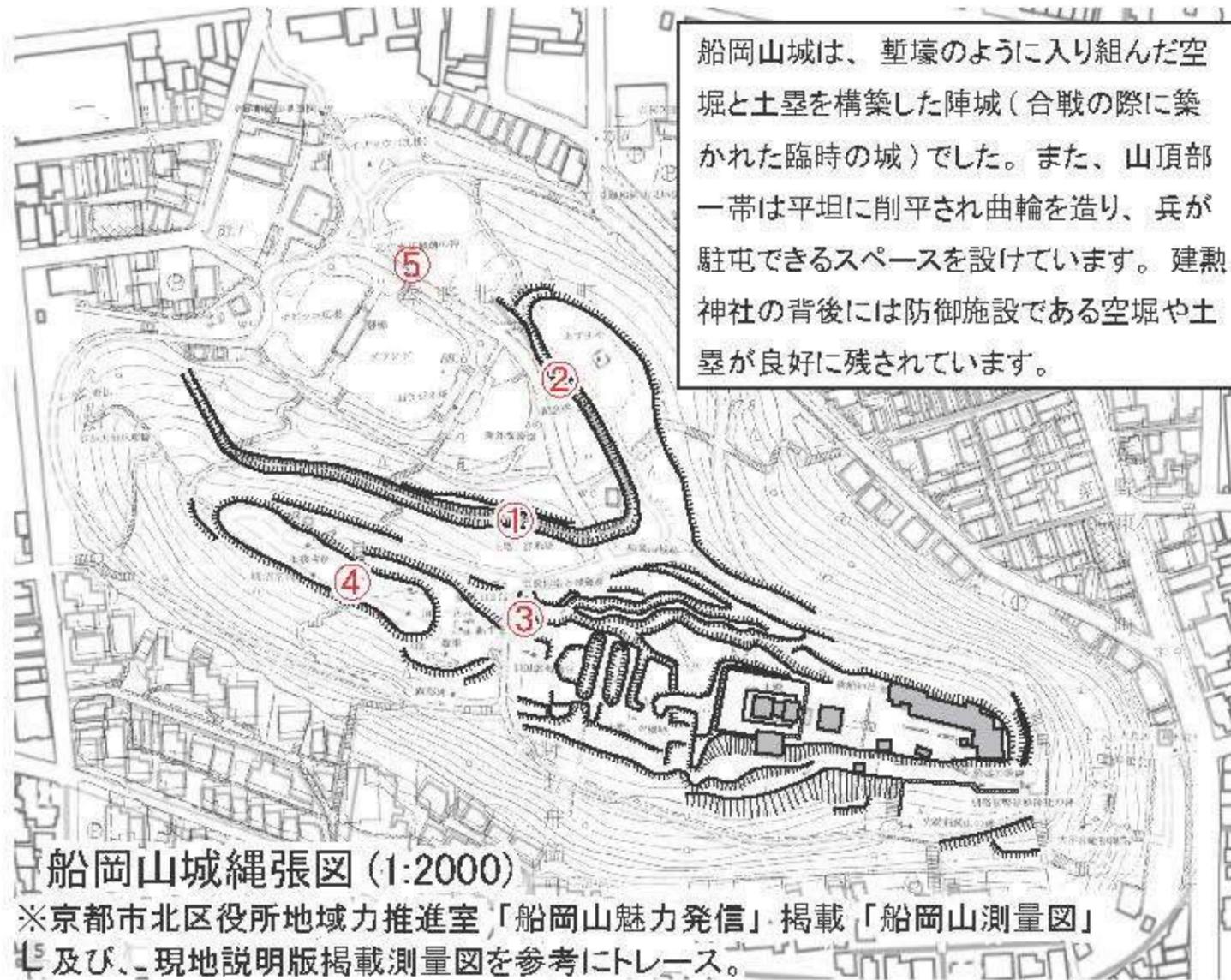
階段部分リベット打ち



すべり台下部リベット打ち



すべり台部分拡大（絵葉書）



①空堀・土塁



②空堀・土塁



③五輪塔群 (室町時代後期頃)



④板碑群 (室町時代頃)



⑤応仁永正戦跡碑

船岡山 沿革

平安時代
 ○平徳宗法皇の頃の測量の基準になったという説がある。
 ○清少納言『枕草子』221段「岡は船岡」
 その他、和歌などで多く登場する。
 ○保元元（1156）年、源義朝と平家頼朝が船岡山にて宛所『兵衛記』

鎌倉時代
 ○承徳元年『徳義草』127段
 「鳥羽野、舟岡、さらぬ野山にも、送る数多かる日はあれど、送らぬ日はなし」

室町時代
 ○応仁元（1467）年、応仁の乱勃発、西軍の大將、山名宗全が船岡山城を築城。
 ○応仁二年、東軍、細川勝元の攻撃により落城。
 ○永正八（1511）年、船岡山合戦。
 ○天文二十二（1553）年、将軍・足利義輝が三好長慶に對し船岡山に陣を構える。

安土・桃山時代
 ○豊臣秀吉が細川長春の重臣である「天正寺」の建立を計画するが中止。

江戸時代
 船岡山は江戸時代を通じて細川長春の墓地とされ保護される。

明治時代
 ○明治13年、細川長春を祀神とした建勲神社の社殿が完成。明治43年、現所在地に移築。

昭和時代
 昭和6年、船岡山一帯が船岡地区に指定される。昭和10年、船岡山公園が開園する。

船岡山城は、応仁元（1467）年に勃発した応仁の乱の際に、西軍の総大将である山名宗全が西軍の本陣とするために築いた陣城です。応仁の乱では西軍方の備後国守護・山名教之や、丹後国守護・一色義直らが立て籠るなどしていますが、応仁二年に東軍の細川勝元により落城。以後放棄されましたが、永正八（1511）年、足利義植を擁立する細川高国・大内義興と、足利義澄を擁立する細川澄元との間で起きた戦い、船岡山合戦の舞台となりました。さらに天文二十二（1553）年には、三好長慶と対立した将軍・足利義輝が陣を構えるなど、室町時代は幾度も合戦の舞台となった岡でした。

1, 船岡山摩崖仏

船岡山北西にある船岡山不動尊の祭壇奥の岩肌に摩崖仏が存在しています。幅 1.15m。高さ 0.33mの蓮華座を設け、座高 1.32mの定印阿弥陀座像を線彫りにしたものです。岩の摂理と風化の影響で、像容がはっきりしないため不動尊と思われて信仰されているものだと推測されます。蓮弁や像容の状態から室町時代以前のものだと推測されています。



船岡山摩崖仏

2, 紫野今宮神社

平安京造営以前に当地に疫神を祀る神社があり、正暦 5 年 (994) に都の悪疫退散を祈りの神輿を作り、紫野御霊会を営んだのが「今宮神社」の起こりとされています。長保 3 年 (1001) に一条天皇のご霊夢によって再び御霊会が行われ、当地に神殿が設けられ「今宮社」と名付けられ、これをもって今宮神社の創祀とされています。



西光寺板石塔婆の地蔵菩薩

3, 西向寺

浄土宗知恩院派に属する寺院で、寛永年間に清誉浄顕上人 (せいよじょうけんしょうにん) が念仏弘通 (ぐつう) の西向庵を創建したのが起こりといわれています。明治 15 年 (1882) に本山知恩院から寺号を得て西向寺となりました。

地蔵堂の東側に明徳 2 年 (1391) 銘の地蔵菩薩板石塔婆があり、「京の三板碑」の一つとして知られています。(了蓮寺、正法寺の板碑)

4, 御土居

豊臣秀吉が天正 19 年 (1591) に戦乱と鴨川の氾濫に備えて京の周囲に構築した土塁で、外側に沿って堀が巡ります。土塁の規模は基底部幅 20m、高さ 5m、頂部の幅 5m で、南北約 8.5 km、東西約 3.5 km、全長 22.5 kmに及びます。鞍馬口・丹波口など 7 つの出入り口が設けられていました。お土居の完成によって内部を洛中、外を洛外と呼ぶようになりました。

現在はそのほとんどが取り壊されていますが、鷹峯や大宮にはいまだに土塁が残されています。

豊臣秀吉は天下統一後に、大規模な京都改造計画を行いま



御土居の範囲

す。平安京の条坊制から発展した街並みについても、小路間の中に道路を設けたり、街中の各所にあった寺院を一カ所に集めて寺町を造ったり、聚楽第を建造したりしました。同時に京都の町を囲む巨大な城壁や鴨川・紙屋川の氾濫から守る治水機能を持たせた御土居を築きあげます。

この御土居は台形の土塁と堀から成り立ち、その総延長は約 22.5 kmに及びます。発掘調査の成果では堀は 13~20mの幅があり、深さは 1~2.5mでした。土塁のほうは埋められてしまっていることが多いため不明がところもありますが、発掘調査で出土したものは底辺が約 20mで高さは地表面から約 2 m（上部は削平のため）以上ありました。土塁には竹が植えられていたようです。

御土居の造営は天正 19（1591）年の閏正月から開始され数か月で完成させています。数か月を 3 か月として、一月に 7.5Km、一日にすると 250mも造営していったこととなります。驚くばかりの速さですね。秀吉のことですから、多方面で作業を進行させ、作業では褒美で人を競わせながら進めていったと思われます。

このようにして完成させた御土居の内側を洛中、外側を洛外となりました。また、御土居ができあがると、洛中からの出入りは決まった場所ではかできずで、例えば祇園祭などは御土居が出来てしまうと四条通が御土居で閉じられ、仕方なく三条通を使ったとあります。

江戸時代に入ると御土居は幕府の管理下に入り、近世京都の重要な施設として存続していきましたが、主に土塁が重視されていったようでそこから「御土居」の名称となっていたようです。秀吉当時は「土居堀」と呼ばれていました。そのため、堀のほうはゴミ捨て場のようなものとなっていたとも言われています。

近代になると、これら御土居も民間に払い下げられて破壊されだし、戦後の急激な復興とともに姿を消していきました。

昭和 5 年に残った 8 カ所の御土居が国指定の史跡となり保全が図られ、昭和 40 年にも北野天満宮境内に残る御土居が国指定の史跡として追加指定されました。

